農村開発・環境保全

ゴムからココヤシへ・・は、レムズエルでも

― ゴム栽培急増でセブ湖汚染の懸念浮上 ―

前号で、エルアリス地区の主力苗木の変更をお伝えしたばかりですが、「タシマン村の環境修復と持続可能な収入向上事業」3年目のレムズエル地区の受益者からも、「ゴムノキをやめてココヤシを植えたい、変更は可能か」という問い合わせを受けました。

エルアリスの苗木変更理由は、干ばつ被害対策ということでした。一方、今回のレムズエルの場合は、セブ湖を取り巻く山腹斜面でのゴム栽培面積拡大で、近い将来の水質汚染への懸念が出たためです。町も昨年、条例で規制を始めたことが分かりました。

ゴムノキから採取された樹液/ラテックスは、通常、保管や輸送に便利な海綿状の濃縮ラテックスに成型されます。ゴムの生産が増えると、この工程で使用する蟻酸等の化学物質が、特に雨期には、山腹を流れ下る濁流に交じり、下流部に位置するセブ湖の水質汚染を引き起こす可能性は十分あります。

私たちのPFPとの協働事業、アグロフォレストリーにおいて、主力苗木をゴムノキとしたのは、2009年のブラクールの事業からです。 理由は以下の2点でした。

① 植えて6，7年後の初収穫以降、30-40年間、樹液/ラテックス収穫が見込まれ年金代わりになる。

② 葉は二酸化炭素吸収効果が高い。

収入向上と環境保全を目的とする持続可能な森林農業に最適として採用されたのがゴムです。

レイクセブ町については、2013年7月のバランガイ・ラムダラグのタブロ地区に始まり、タシマン、タクネルの2バランガイを加えて、合計7地区（シチオ）、170haで、1万本あまりのゴムノキを植えました。

なお、すでに植えた苗木については、そのままで問題なしと確認できました。これから数年間、大切に育てて、収入向上、環境保全という所期の目的を完遂してほしいと思っています。

上記の、ゴムをココヤシに変えたエルアリスの事業（イオン環境財団助成）は、この3月末に完了し、報告書を作成中です。以下はその写真報告の一枚です。

エルアリス地区はチボリとウボ民族の38世帯からなる集落で、事業ではうち20世帯が対象となりました。写真はチボリ民族のケンガさんの家族で、昨年のうちに定植を終えたバナナとコーヒーに加えて、ゴムから変更したココヤシ70本も定植を終えました。

8年前のバナナ10本から500株へ

― ボルールの事業報告より ―

2016年度の小規模アグロフォレストリー事業では、ココヤシ、ゴム、バナナを各300本ずつ植えました。

うち、ココヤシ苗の一部は、８年前のモデル事業の受益者から提供されました。収穫したココヤシの実を芽出ししたものです。（写真は:急斜面のココヤシ苗定植作業）

バナナについても、2008年以来、断続的に支援してきた小規模事業の受益者が順調に株を増やして、昨年度の事業でも苗木提供者となりました。

住民提供の苗は事業予算で買い取ります。過去の小規模モデル事業では、1世帯苗木数は各10本ぐらいですが、芽出しや株分けで、収入が増え、また、受益者も増えていきます。

ボルールの場合は、農業専攻の元奨学生ボニファシオが、地域で指導やモニターを継続していて、投入する資金が小規模でも、順次、受益者を拡大できる良い事例となっています。

＊　2008年、2014年、2016年の各年度ともに、NPO法人WE21ジャパンみどりの支援をいただきました　＊

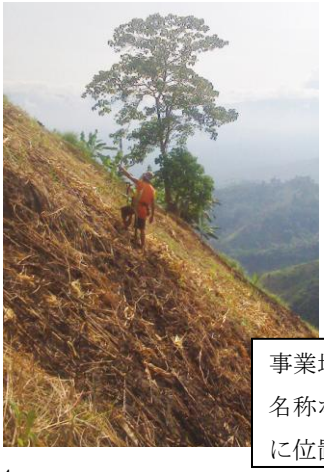
新年度も継続したいボルールの環境保全活動

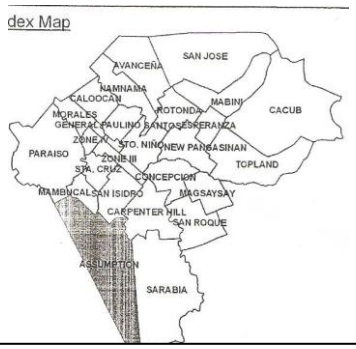
― 在来種4500本、竹1500本で地滑り防止を ―

ボルールはサウスコタバト州の州都コロナダル市の南西部に位置し、ロハス山系の一部に当たります。

樹木が消えた急傾斜地では地滑り被害がしばしば起きます。こうした自然災害防止には、ある程度広い範囲での植林やアグロフォレストリー実施が必要と考えて、この３月、緑の募金の交付金申請をしました。

承認をいただければ７月から事業を開始します。





事業地・バランガイ・アサンプション（旧名称ボルール）は、コロナダル市の南西部に位置し、唯一先住民族が多い区域です。